

音楽を紡ぐ喜び、浸る喜びを
多くの人と共有したい――

学生時代にバロック音楽
(17世紀初頭～18世紀半ばの
ヨーロッパ音楽)に魅了され
た鈴木さん。卒業後からプ
ロの音楽家として活躍し、音
楽の可能性を信じた挑戦を
続けています。

【異国の地で出会った音楽】
バロック音楽との出会いは、学生時代を過ごした英国。その印象的な調べを聞き、すぐにとりこになったと振り返ります。

「英国で学んだ5年間、その中で出会ったのがルネッサンス・バロック音楽でした。第一印象の優雅さ、端正さに心奪われ、留学期間を通して学ぶことを決意。在学中に所属していた聖歌隊では、イタリアの大聖堂でソリストとして歌う機会もいただきました。その経験もあったバロック音楽の中でも、聖

歌や讃美歌などを歌う宗教声楽の道へ進むことを決めました」



【楽曲に息づく人間味を歌う】
約350年前に作られた数々の名曲には、現代の私たちも共感する詩が描かれていると鈴木さんは話します。

「コロナ禍だった令和3年、外出自粛が求められていた頃、

介するというもの。バラが咲き乱れる様子を賛美した曲を映像と一緒に紹介することで、耳だけではなく目でも楽しんでもらいたいという思いで制作しました。時代が変わっても、変わらぬバラの美しさを



バロック音楽の声楽家(メゾソプラノ)
鈴木美穂さん(本通一丁目)

アーティストを支援する『ふじのくに#エールアートプロジェクト』に私の企画が採択されました。バロック時代を表する作曲家・ヘンデルが手がけた『燃えるようなバラ』を、ばらの丘公園の動画とともに紹

歌ったこの曲からは、当時の人々の感性を感じます。絢爛豪華に咲く風景は、現代の私たちが見ても美しいですからね。作品を通して、往年の人々の琴線に触れてもらえたらうれし

【音楽の可能性を信じて】

「活動の場は、市内でも広がっています。昨年3月には『音楽であふれる街島田 みんなで第九を』に出演しました。子どもから90歳代までの方々との共演。演奏終了後、家族が出演者を笑顔で労う姿を見た時に、世代を超えて作り上げ、周りの人をも笑顔にさせる音楽の魅力を改めて感じました。今後はその魅力を、新しいカタチで発信していきたいですね。今年、大井神社の神前に歌をささげる『奉納演奏』に向けて準備を進めています。ヨーロッパがバロック時代を迎えた1689年。現在の地に鎮座した三柱の女神様たちに着想を得て、女性三人で演奏します。国は違えど同じ時代に響いたであろう音楽を、当時の楽器を用いて奉納します。地域と文化を結ぶ場で演奏できることは、光栄でもあり、楽しみでもあります」

従来のカタチにとらわれない鈴木さんの舞台。先人の思いを今に伝える歌声は、これからも音楽に新たな価値を付け加えていくでしょう。



- 心を整えるために楽屋に持ち込むお守り(左上)
- 幅広い世代の出演者とともに第九を歌う鈴木さん(左下)

Shimadajin File #168

Story 島田人田